

マキノ病院ニュース

第84号

—平成26年10月1日発行—

医療安全の「転ばぬ先の杖」！

看護部長／医療安全管理者

尾方 恵



1999年に大学病院で起きた患者取り違い事故から、医療安全への気運が高まり、個人の責任論から、組織としての事故対策への仕組みづくりが重要であるとして、国主導による医療安全管理委員会の設置が必須となりました。さらに、より具体的に安全対策の活動を組織横断的に係わるなどの推進役として、医療安全管理者をおくこととなり、その役割を微力ながら担っております。今回、事故が起こらないために取り組んでいる医療安全活動についての一部を紹介致します。

平成二十二年度より「5S活動」の取り組みを始めました。5Sとは、**整理・整頓・清掃・清潔・躰**の頭文字から取ったものです。療養環境や外来の環境を整える、そして作業環境を整えることは大きな事故のリスク低減になり効率も良くなるからです。開始前に、院内全部署の現状を写真に撮りました。毎月、安全ラウンドを行い、一年後どのようなに変わったか、成果を競ったのです。「ピフォー・アフター！」随分と綺麗になりました。あ

また、別の効果として、指摘されたから仕方なく整理整頓するという姿勢から、部署全体として言われる前に改善しようという気風が育ったのではないかと感じています。改善の目的は、事故の危険性を排除しながら、患者さんに喜んでもらう、感動してもらおう、気持ちよく仕事が出来ることです。それを実感する喜びを体験したり、定期的に評価されることで、次のモチベーションの維持にもなるということをお、この実践から感じてお

患者様に安全な医療サービスを提供出来るように、まずは「転ばぬ先の杖」で、危険を予知し、環境を整え、患者さんとの対話、部署間のコミュニケーションを密にこれからも安全活動を推進してまいります。

尚、11月25日を含む一週間は「**医療安全推進週間**」です。皆様の参加が安全性を高めます。例えば、「お名前をお聞かせください」と云われましたら、フルネームでお名前をお伝えください。これも、患者間違いを防ぐ事故対策の一つです。少しでも疑問に思われたら、医師やスタッフへお声かけください。宜しく願っています。

診療科のご案内

内科・外科・肛門外科・小児科・整形外科・皮膚科
神経内科・リハビリテーション科・リウマチ科・放射線科
【救急指定・労災指定】【人間ドック・各種健診】

— 診療受付時間 —

平日 8:30 ~ 12:00 16:40 ~ 19:00 土曜日 8:30 ~ 12:00
滋賀県高島市マキノ町新保 1097 TEL 0740-27-0099

ホームページ <http://www.makino-hosp.or.jp>

ドクターコーナー



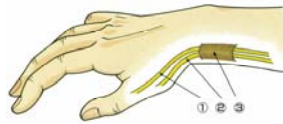
CHOSHINKI

手に生じる腱鞘炎のほとんどは、

手首(親指の付け根、背側)と、指の手掌側(親指・中指・薬指)に生じ、日常よく手や指を使用する人に多く生じる傾向があります。

このうち手首に生じるものはドゥケルバン腱鞘炎といわれており、長母指外転筋腱と短母指伸筋腱の狭

窄性腱鞘炎です。専門用語なのでわかりやすく言うと、手指を思い切り広げたときに親指の背側に二本の腱が浮き出てきますが、その2本が長母指外転筋腱



赤ちゃんを抱っこする 20、30台の女性にも多く発生します。赤ちゃんのおしりを支える手首の使い方が関係する可能性があります。また、スポーツマンやパソコンなどで指をよく使う人にも多く、産前産後の女性にも多い傾向があります。

手の腱鞘炎について

整形外科 笠原 壽人

(図②)と、短母指伸筋腱(図①)

です。この2本の腱が腱鞘(図③)

というサヤの中を一緒に通過します。これらの腱の通過障害がドゥケルバン腱鞘炎で30歳から50歳くらい

に多いといわれています。男・女比では1対7で女性に多く生じます。

手指に生じるものは親指・中指

・薬指に多く見られます。中指と

薬指では感情線と呼ばれる線の少し先(指に近いところ)辺りに生じる

ものです。親指では、指の根元にある線の当たりに痛みを生じます。これらは時にはね指といわれる状態

を生じます。これは強く指を曲げてこぶしを作るようにすると、炎症のある指が伸びなくなつて固まったようになります。それを解除するときにはねに貯まった力をほぐすようなコクンという感触があるのでね指と言われます。そのような引つ掛かりのない腱鞘炎もよく見ます。更年期の女性に起こることが多いとされますが、私の印象ではそれほど偏りはないと思います。また糖尿病や透析患者にもよく発生する傾向があるようです。



ドゥケルバン腱鞘炎もね指も治療の仕方はよく似ています。初めは安静です。機械刺激を少

なくして消炎鎮痛剤ロキソニンなどを服用して経過を見ます。それがだめなら腱鞘内にステロイドなどの注射をします。リハビリも有効です。それもだめなら手術をします。手術は局所麻酔で10分程度の簡単なもので、皮膚切開も1・5センチ程度のもので通常入院を必要としません。ただし10日間程度は水仕事ができません。こんな症状でお困りの方がおられましたら、治療もそれほど難しくはないのでご相談ください。

